

(1) 概要

日時	令和3年7月1日(木)	
場所	大阪府立寝屋川支援学校(視聴覚室)	
出席者	会長	辻 行雄(L's College おおさか 校長)
	副会長	大槻 千春(大阪府立寝屋川支援学校 PTA 会長)
	委員	富永 光昭(大阪教育大学)
	委員	山崎 淳(寝屋川市立梅が丘小学校 校長)
	委員	猿橋 桂子(寝屋川市立あかつき・ひばり園 ひばり園園長)
	委員	上村 篤(株式会社ゲオビジネスサポート ストアコーディネーター)
	校長	福井 浩平
	准校長	阪本 友輝
	事務局	
	事務部長	石川 昌義
	教頭	吉村 晋治
	教頭	藤田 太朗(事務局長)

(2) 議事

議 題	
① 本校におけるセンター的機能の活動状況について ② 防災の取り組みについて ③ 進路指導の状況について ④ 令和3年度学校経営計画及び学校評価について ⑤ その他	
協 議 内 容	
①本校におけるセンター的機能の活動状況について	
角尾首席 山崎委員	資料の説明 角尾先生を中心に様々な場所で研修をしてもらっている。地域の学校の支援学級の担当教諭は助かっている。今後も継続してほしい。
富永委員	地域の学校と協力しながら展開されている。プラスの視点としてセンター的機能として防災学習を結びつけて教育内容なども提供していったらどうか。教員だけでなく子どもたちから発信していくなど。地域との連携、障がい理解にもつながる。災害時に共に逃げるといふ、子ども同士の連携。社会的弱者ではなく、一緒に守る立場ということを、支援学校発信で、子どもたちを組み込んで(巻き込んで?)できないか 特別支援学校発信に子どもたちを組み込んでセンター的機能を果たしていったらどうかと考える。
猿橋委員	相談サポートとのすみ分けについてどうなっているのか。

角尾首席	学校（市）によって進路巡回相談か支援学校か違いがある。学校園からの要望で、市で振り分けていることもある。状況に応じて判断、調整をされている。
大槻委員	小学部の児童数が増え、教室が不足しているように感じる。地域の小学校に就学することに不安を感じていることもあるように感じる。不安を払拭できないか。
福井校長	いろんな選択肢から自分に合った学校を状況を気にせずに選べるのが望ましい。 地域の学校の専門性を高めていき、選択肢を増やしていきたいと考えている。
②防災の取り組みについて	
角尾首席	資料の説明
山崎委員	とても取り組みが進んでいる。地域の学校でも参考にしたい。
③進路指導の状況について	
坂元教諭	資料の説明
山崎委員	進路の決まらない生徒はどうなっているのか。今後の学校生活につながるので保護者の気になる点である。その後の支援はどうなっているか知りたい。
上村委員	校外実習を積極的に行い、刺激を受け学んでいるように感じる。学校以外のものからの指導もとても大切。コロナ禍においても積極的に取り組んでいただけたら。
大槻委員	進路への意識が高まっているように感じる。PTA としても積極的に取り組んでいきたい。
坂元教諭	学校に通えておらず進路先が決められない、他傷で受け入れ先がない、毎年数人は進路が決まらない者もいる。卒業後も個別の状況に応じて引き続き支援を行っている。 今後も説明会等により理解を深めていくよう努めていく。 コロナ禍においてたくさんの企業が受け入れていただき大変ありがたく感じている。今後も継続をお願いしたい。
福井校長	地域に学校ともつながりを充実させ、学年の変わり目や学部の変り目などに支援学校から地域の学校に転入していくことも今後の方策としてはどうかと考える。
④令和3年度学校経営計画及び学校評価について	
校長	学校経営計画の説明
辻会長	とてもわかりやすくなった。
富永委員	防災教育から防災につとめとなった理由はあるのか。
福井校長	ご指摘ありがとうございます。ご指摘の通り防災教育が重要だと考えている。守られる存在から守る存在へ、子どもたちから発信していくことがとても重要だと考えるので校内でもそのように発信していきたい。
⑤その他	
大槻委員	学校が変わってきているように感じる。先生方からもその雰囲気を感じることができる。コロナ禍でも様々な面で頑張っておられる。しかし、先生と保

<p>猿橋委員</p>	<p>護者の距離が近くなりすぎて、保護者からの要求が過度になりすぎないか心配。保護者と先生方との距離を保ち、協力していきたい。</p> <p>地域との交流や就学前施設とも深めようと打ち出している。センター的機能と連動していく部分が大いにあると感じる。一緒に取り組めたらと思う。イメージの沸く学校経営計画になっている。</p>
<p>山崎委員</p>	<p>学校経営計画、変わったな、フレーズなどおもしろい。先生方の意見が反映されているように感じる。教育実習に寝屋川支援学校に行かれた先生の感想で、支援学校は寄り添うだけでなく、将来を見据えて後ろから見守ることの大切さを学んだと聞き本校でも参考にしていきたい。</p> <p>寝屋川サロン、先生方が家族のように過ごせる場所とても大切だと感じる。先生方からも自分たちをよくしていこうというのが感じられる。</p>
<p>上村委員</p>	<p>キャッチフレーズは、いい変革だと感じる。思いが伝わる。先生方にもわかりやすく取り組みやすいと感じるのでは。同じようにほかの部分にも広げていければもっとよくなっていくと感じる。</p> <p>教育を進めるにあたって「理論」を意識することが大切。教える側にも教わる側にも「なぜこれをするのか」ということを説明できる、わかっていることが大切である。</p>
<p>富永委員</p>	<p>特別支援学校の中身を作っていくことが大切。強みを作っていくことが大切。自立活動にキャリア教育を組み込み取り組んでいるワークと、ワークだけでなく「ライフ」のキャリアを作り上げていくことが大切だと考える。すべてが繋がっているなのでそのつながりをこれから作っていくのかと。居住地交流、センター的機能で何をベースに行っていくのか、何を取り上げるのか、地域の先生方と一緒に作り上げていく。その際支援学校の先生がセンター的機能を果たしていくとよりよくなっていくと感じます。</p>
<p>辻会長</p>	<p>学校経営計画に沿って学校運営を行っていただきたい。評議会としてもこれからバックアップしていきたい。</p>